

公開シンポジウム 「学力低下」問題の現状と展望 概 要

センター教授 市川 伸 一
センター助教授 志 水 宏 吉

本年度よりスタートした新プロジェクト「『学力低下』の実態解明と改善方策に関する実践的研究」は、社会的に大きな関心を集めているテーマでもある。そこで、本センターとしては、この問題についてのセンター関係者の見解や取り組みを広く知っていただくとともに、議論を喚起することを目的として、公開のシンポジウムを開催することとした。

シンポジウムは、2000年12月16日に、駒場キャンパスの数理科学研究棟にて開催された。まず、午後1時40分から3時までは、下記の3つの分科会が行われた。

分科会

(1)学習支援に向けての実践的取り組み

司 会：近藤邦夫

(大学院教育学研究科教授,
本センター研究員／学校臨床学)

報告者：市川伸一

(本センター教授／教育心理学)

(2)スクールカウンセリングと学習意欲

司 会：平野和由

(附属中等教育学校教諭,
本センター研究員／社会科)

報告者：リチャード・ヘイズ

(本センター客員教授／カウンセリング心理学)

亀口憲治

(本センター教授／臨床心理学)

(3)学力向上への制度的ストラテジー

司 会：高橋 均

(附属中等教育学校教諭,
本センター協力研究員／数学科)

報告者：志水宏吉

(本センター助教授／学校社会学)

その後、午後3時10分から5時30分までは、全体会に移った。全体会の司会と話題提供者は以下の通りであった。

全体会 「学力低下」問題の現状と展望

司 会：佐藤 学

(大学院教育学研究科教授,
本センター研究員／教育学)

話題提供者：岡本和夫

(大学院数理科学研究科教授,
本センター協力研究員／数学科)

高橋 均

(附属中等教育学校教諭,
本センター協力研究員／数学科)

奈須正裕

(国立教育研究所教育指導研究部教育方法
研究室室長, 本センター客員助教授/
教育心理学)

荻谷剛彦

(大学院教育学研究科教授,
本センター研究員／教育社会学)

参加者は全体で150名以上と、非常に盛会であり、この問題に関する社会的関心をうかがわせるものであった。議論も活発に行われたが、紙面の都合上、記録としては、全体会における各話題提供者の発表内容を以下に収録するものとする。